

埼玉県におけるトルコギキョウ10月出荷栽培管理技術マニュアル

令和6年3月

さいたまの花普及促進協議会

(2) 施設の概要

間口 5.5m 奥行38m パイプハウス妻面に換気窓あり 側面に赤色ネット
地温の上昇を抑制するため、定植前の6月22日から外部遮光
定植から9月上旬まで終夜赤色LED照射（午後6時から午前6時）



写真1 外部遮光をした施設

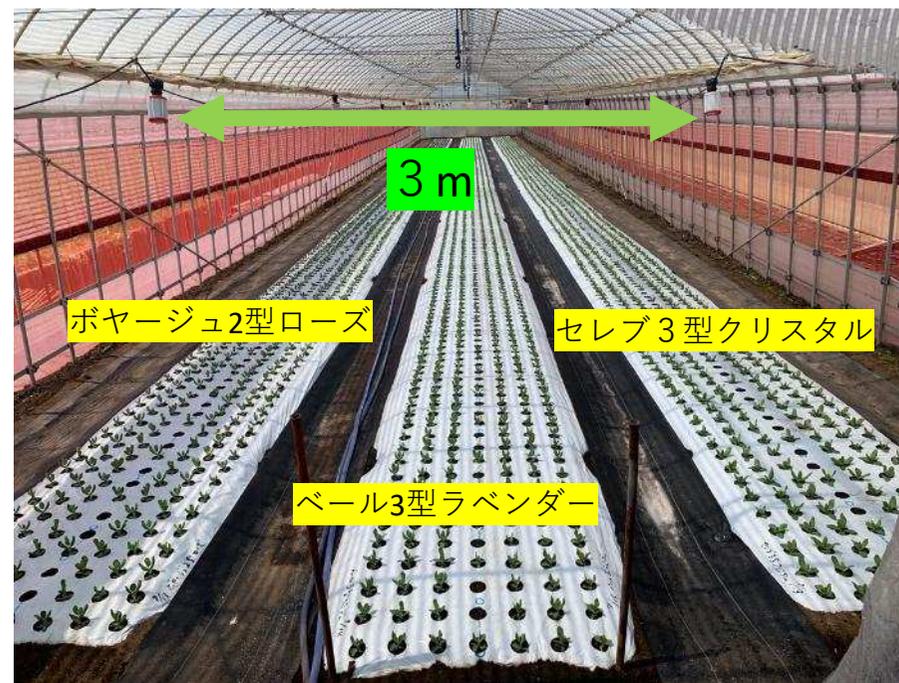


写真2 施設内の様子

2 調査結果

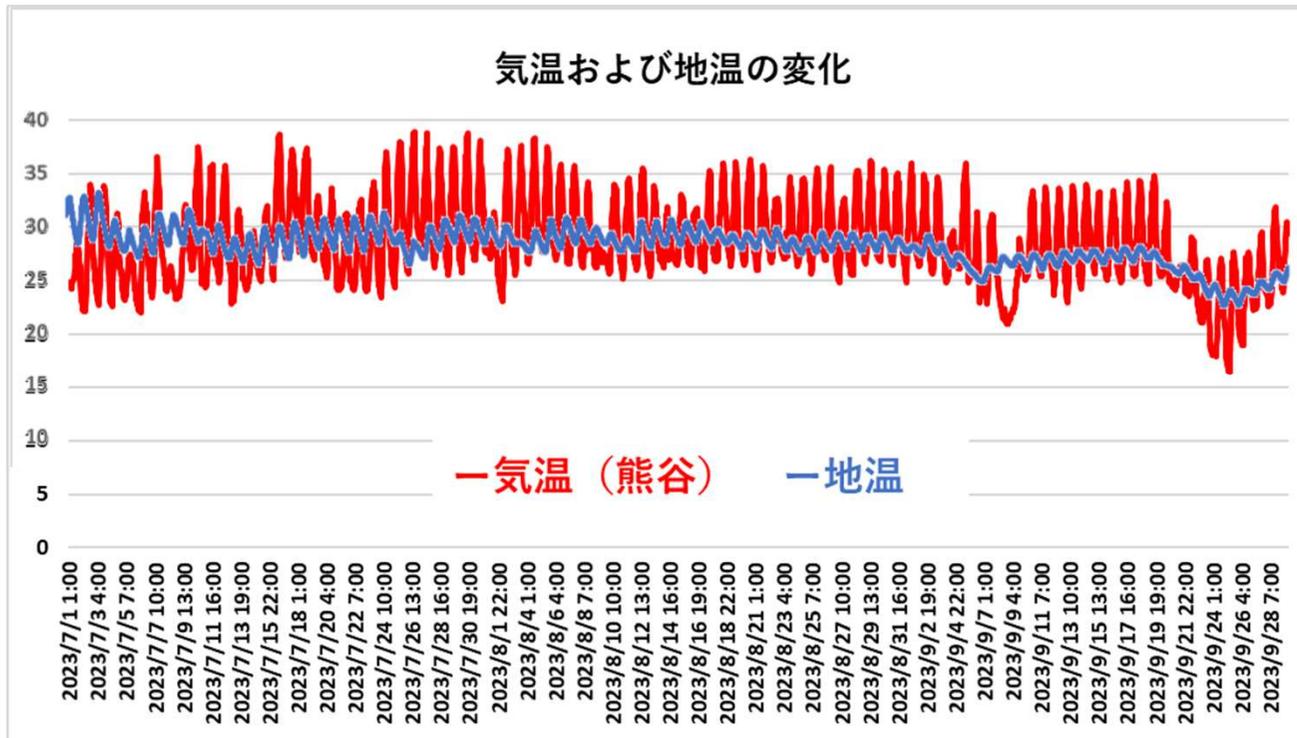
(1) 栽培期間中の外気温と遮光時の施設内地温

表1 60%外部遮光時の放射照度 7月6日午前11時30分ころ

	単位 $\mu\text{mol}/\text{m}^2\cdot\text{s}$		
	施設内	屋外	遮光率
最大値	988.53	2431.5	59%
最小値	547	1724.95	68%
平均値	786.13	2091.85	62%

60%外部遮光時の放射照度は、平均すると遮光率は62%であった。

図1 施設内地温と外気温（熊谷气象台）の推移



令和5年7月～9月の日平均気温は平年比で約3℃前後高く推移したが、遮光をしてある施設内地温は、栽培期間中の最高地温が31.5℃で8月中旬以降はおおむね30℃以下に推移

(2) 収穫時調査

表2 収穫時調査(20本平均)				
	草丈 (cm)	最終摘心 位置(cm)	着蕾数 (個)	切り花重 (g)
ボヤージュ2型ローズ	71.3	50.35	1.95	26.7
ベール3型ラベンダー	86.35	64.9	5.8	34.02
セレブ3型クリスタル	* 91.2	* 65.4	* 5	** 39.81
* 9月29日調査 ** 10月11日調査 そのほかは すべて9月22日調査				

3品種とも、草丈は目標値の70cmを確保できたが、切り花重は11月出荷の作型より15～20g程度少なかった。

なお、ボヤージュ2型は特に茎が細く、着蕾数も少なく、この作型での赤色LED照射による栽培には不適と思われた。



写真3 収穫時のほ場のようす 9月22日



写真4 ボヤージュ2型ローズ



写真5 ベール3型ラベンダー

3 実証結果

7月13日～7月14日に定植したトルコギキョウ2品種（ベール3型ラベンダー、セレブ3型クリスタル）に、定植時から赤色LEDを終夜電照を行うことで約1か月後から着蕾し、摘蕾を行うことで9月下旬から草丈80cmの切花が収穫できた。

ただし、パイプハウスは、60%の外部遮光を行い、地温をおおむね30℃以下に維持した。

4 まとめ

技術の概要

(1) ハウス

定植約1か月前から60%の外部遮光を行い、地温を30℃以下に維持する。

(2) 電照

赤色LEDを用い、定植時から9月上旬まで、午後6時から午前6時まで終夜電照を行う。

(3) 品種

供用した3品種のうち、ボヤージュ2型ローズは不適であったことから、技術導入に当たっては品種の選択が必要である。

実施機関 さいたまの花普及促進協議会

協力機関等 埼玉県大里農林振興センター
深谷市花き生産組合連合会

本マニュアルは農林水産省「ジャパンフラワー強化プロジェクト推進」で実施した実証事業により作成しました。

発行者 さいたまの花普及促進協議会

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-12-9埼玉県農林会館

TEL：048-711-7166